

随 想

研 究 管 理 雑 感



西 原 守*

職掌がらで、研究所の運営や管理に関する方針なり考え方を、社内の関係者のみならず、社外の方々にもご説明しなければならない機会が、ときどきやつてきます。研究所の管理、運営の方法論については、内外に多くの著書や記述がありますので、そのなかから適当なものを引用させていただいて、いかにも自分で考えたような顔をして、説明しているのが、今までの状態でした。しかしながら、この一年間のように日本の重工業が存在し、指向する方向が根底からゆさぶられるようになると、従来の諸条件の微妙な均衡と安定が大きく変動をはじめているため、市場構造の変化に対応した発想の転換によつて、製造技術、製品開発および製品利用技術のバランスの取れた発展を計る必要が考えられ、さらには社会的環境への柔軟な対応性も強く要求されるようになってきました。これらのためには企業における研究開発の原点に立ちかえつて、企業研究所と学会や大学研究室との関係も含めて、地についた構想をねり直す必要がありそうです。

しかしながら、いつの時代にも変わらぬ、研究開発従事者、研究者も研究管理者も含めて、の心構えとしては、以下の四つの言葉（項目）が明確な指針となりうると考えており、おりにふれて説明しております。

Discipline

Dedication

Desire

Determination

わざわざ英語でかいて、きざに思われますが、顕文字がいずれもDではじまりますのでおぼえやすく、また日本語では表現し難いニュアンスも含まれているように思われます。

最初の項目は最近“学際”などの新しい言葉でわれわれの身近で用いられている言葉とも関連があり、辞書では、訓練、戒律などの意味もありますが、自己規制という表現がもつともピンとくるように思われます。自己の拠つて立つ基礎を固め、さらに高めるように努力するとともに、客観的に評価するとともに

* (株)神戸製鋼所中央研究所所長 工博

いえましょう。第2の項目は献身という訳語がぴつたりのように思われます。新しいものを創造していくためには、何かを犠牲にして、ある目標に対して身を挺して邁進することが必要でしょう。第3の項目は、願望、欲望、要求などの訳語がありますが、意慾という表現がよさそうに思われます。研究を遂行して、人に認められたい、あるいは社会や企業のため貢献したい、などはこれに属するのではないのでしょうか。第4の項目は、決意という訳語がぴつたりかと思えます。評論をしているだけでは研究にならず、現象とか機構とかの新しい、未知のものへの挑戦が必要になつてくることを意味しています。以上の四項目は事新しく書きたてたにすぎませんが、日本の国が今後進んでいく福祉社会の理想である、国民一人一人が人間性豊かなゆとりのある生活に比べると、研究従事者は著しく stoical な生活をしなければならないことを強調したかつたわけです。

研究開発者の努力が中核となつて、自主技術力を高め、日本の重工業を規模的にも質的にも発展させる原動力となつてきましたが、これからの大きく変動する時代においても、研究従事者の忍耐力と超越的精神が日本人の熟慮と行動を調和させる特殊な才能と相俟つて、あらたな繁栄をもたらす原動力となることを信じてうたがいません。